

## 参考資料：2013年度グッドデザイン大賞候補（10月1日発表 / 全10件）

グッドデザイン大賞はすべての受賞対象を通じて、2013年度を象徴するデザインとして位置づけられる1件で、11月7日に発表されます。その決定には審査委員と今年度グッドデザイン賞受賞者のほか、10月30日から東京ミッドタウンで開催される「グッドデザインエキシビジョン2013」（G展）への来場者による投票結果も反映されます。

（各候補の記載事項：審査番号・一般名称・固有名称・受賞企業名・対象の概要・評価点）

### 13G040324 照明器具

#### 陰翳 IN-EI ISSEY MIYAKE 株式会社三宅デザイン事務所

＜概要＞三宅一生が率いるReality Lab.が着想・開発し、アルテミデ社から製品化された。未来を見据え、環境や資源の問題をはじめとする社会の課題に向き合いながらものづくりに取り組むReality Lab.が、「再生素材をいかに魅力的なものとして生かせるか」をテーマに掲げたプロジェクト。ペットボトル再生繊維から成る不織布に独自の改良を加えてシェードに使用。折りを生かしたシェードは精緻な手仕事で形づくられている。

＜評価点＞世界の照明デザインの歴史に新たな概念を刻むような現代照明の製品。日本の伝統文化を背景として生み出された伝統的な照明の存在を継承し、さらに高度な設計と加工技術によって生み出された完成度の高さにおいても、服飾の立体造形の設計技術と経験を駆使し、複雑な造形を精度の高い手仕事によって可能とし、彫刻のような美しい光の造形作品として完成させている。光と影による陰翳という繊細な光のニュアンスを意識して製品の存在に内包するような光の質を探った照明器具として、単体の光の美術作品としても高い完成度を実現している。和紙の表情に近い再生ポリエステル繊維に改良を加えた生地を開発を行い、表情は柔らかいが、立体にした際の形状保持ができるように適度な硬さと和紙のような透明感を備えている。立体造形の数理を生かした折りたたみ手法によって、竹ヒゴなどの構造体をもつことなくシェードが自立し、フラットに折りたためることや、マグネットで灯具とシェードの取り付けも簡単にできるよう配慮もなされている。照明としてだけでなく、服飾デザインの立体造形の美意識、光と影の陰翳が作り出す彫刻作品としての美しさ、そして谷崎文学の文脈になぞらえた詩的な光のニュアンスなど深い思考と様々な方向からのアプローチによるプロセスは、日本のめざすべき物作りを示唆するものとなっている。



### 13G040327 椅子

#### HIROSHIMA フォールディングチェア 株式会社マルニ木工

＜概要＞従来の木製家具製品に合わせて使える木製折りたたみ椅子。座り心地が良く、使わない時でも美しい。金具を最小限に抑え、木材の木目、色を揃えて選定し、全体のバランスを大切にした。

＜評価点＞必要な時にすぐ使えて、座り心地が良く、立てかけておいても美しく、場所をとらない、強度と耐久性を求められる折りたたみ椅子は従来はスチールパイプなどの金属で作られてきた。木製品によってそのような高い強度や耐久性を克服する場合のハードルの高さはメーカーの開発力と生産力、そしてデザイナーの高い設計力が問われる製品開発となる。椅子の使用時と折りたたみ時の背板と座板の構造上の治まりの関係性を、意匠上の美しい治まりと強度を保ちながら両立させることは構造と強度確保の上で高い壁であったことが伺える。折りたたみ椅子の持つ軽快感を表現するために計算された各部材の太さと強度の限界を探り、見出された各部材の限界値とバランスによって強度と美しさがバランス良く担保されている。さらに、必要な強度を確保することと美しさを実現するために金属パーツを開発することによって、独自の機構と意匠性を実現している。座り心地は、3次元成形した背板と座面の適正なサイズと角度の関係性により、折りたたみ椅子とは思えないような快適さを実現している。左右の脚は木目、色を揃えて選定されており、突板をブックマッチで貼り合わせた背板、座板と組み合わせたときの全体の表情のバランスに細やかに配慮されている。折りたたむと厚さ13cmになりコンパクトに収納と保管ができる点は、製品の使用範囲を広げ木製折りたたみ椅子の可能性を示唆している。



### 13G050550 Curved OLED TV

EA9800 LG Electronics, Inc.

＜概要＞1897年、ドイツのカール・ブラウンがCRTディスプレイを発明した。その後の100年間はCRTディスプレイが重要な役割を果たした。1997年、画面の駆動原理はいくらか変化しより自然な薄型テレビが登場した。しかし当時、そのようなテレビもユーザーのことを完全には考慮していなかった。そして2013年に有機発光ダイオード（OLED）テレビが出現、さらに世界初の曲面OLEDテレビにより、我々人間が機械的な視聴環境を越えた、最高の視聴環境を得ることとなった。

＜評価点＞新しいテレビを卓越したデザイン力で表現している。まさに視聴するためのテレビであり、テレビのあるべき姿の一つの答えを出している。画面下部のスタンドを透明にすることで、画面そのものを際立たせるとともに、そこにスピーカーを内蔵しており、映像だけでなく、音声にも最先端技術を応用している。「すばらしい」の一言で片付けることができないほどの技術をデザインで包み込んだ美しい機器である。背面も美しいCFRPにより成り立っている。全面に手を抜くことなくデザインしていることも賞賛に値する、すばらしい完成度に魅了される製品である。



### 13G060579 自転車

ノイズ カーゴ 株式会社NOiS

＜概要＞マウンテンバイクと同等の26インチフレームサイズに20インチタイヤを採用することで、窮屈さを感じさせないポジションと走行性、荷物積載時の低重心化を実現させたミニベロカーゴ。積載のためのオリジナル大型リアキャリアとフレームを一体化させたデザインは、太いパイプを使ったデザインでありながら、直線的なフレームワークで軽快さをアピール。ワークバイクとして使用できる強度と普段使いの快適性を両立させた。



＜評価点＞荷物の運搬性能が高く重心の低い自転車である。機能を吟味しながら、愛着の持てるていねいな設計で、自転車の多様性の裾野を説得力をもって押し広げている。自転車が垂直に立つスタンドの型式も、荷を取り扱いやすい自転車の角度を想定したもので、乗ったままでも操作できる操作性も含めて高く評価できる。斜めに傾くスタンド型式だとハンドルも傾斜方向に傾ぎ、自転車の駐輪効率を微妙に妨げる。運搬性能と同時にこのような自転車本来の使いやすさを見直す視点をも評価したい。

### 13G060587 軽自動車

ダイハツ タント ダイハツ工業株式会社

＜概要＞「驚きの広々空間」で家族みんなの楽しさを追求し、「ママワゴン」として新しいジャンルを切り開いた。子育てファミリーをはじめとする多くの人がより快活に使えるよう、デザインコンセプトを「家族・みんなの元気空間」とし、安全・燃費・走行性能の進化、より大きなキャビン、助手席側ミラクルオープンドア+ 運転席側スライドドア、楽しく使える沢山のユーティリティといったアイテムを加えることにより、「広さ」と「使いやすさ」を進化させた。

＜評価点＞三代目となるタントは室内への開口を確保するセンターピラーレスとスライドドアによる抜群の乗降性と室内空間の拡大による使い勝手のよさを追求し、より高い次元で生活の中心にある「軽」のスタンダードモデルを提案している。樹脂パーツの採用による軽量化と空力への配慮による高い燃費性能の達成や、スマートアシストの実装による安全性の確保も評価される。これまで、欧州車のデザインで重視されてきた「走り」「快適性」「美しさ」といった価値尺度に対して、日本で生まれた軽というカテゴリーで「横のデザイン」という価値を堂々と体現している。



### 13G060592 自動車

フォルクスワーゲン ゴルフ フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

<概要>フォルクスワーゲンの新しいモジュール戦略「MQB」のもと開発された初めてのフォルクスワーゲン。先代で高い評価を得たTSIエンジンや高剛性ボディ、サスペンションだけでなく、エアコンやインフォテインメントシステムにいたるまで新世代モジュールとしてゼロから開発され、機能と性能を格段に向上しながら、プレミアムカーに匹敵する内外装品質、クラス最高の安全装備を持ちつつ、大幅な軽量化と燃費の向上に成功した。



<評価点>水平基調のフロント/リア回り、引き絞った弓を思わせるCピラー形状など、七代目となる新型も一目でゴルフとわかる。ブランドとしてのアイデンティティにブレがない。そのうえで新型ならではの進化も実感できる。プレスラインやパーツの分割線など、個々の線や面を極限まで追い込んであり、一切の妥協がない。同社で初採用となる「MQB」と名付けたモジュラー設計の車台(プラットフォーム)も特筆に値する。自動車の価値の60%が集まる前輪からアクセルペダルまでの構造を共通化し、それ以外の部分を柔軟に変更可能とすることで、コンパクトカーからミニバンまで、横置きエンジン全車種の車台の共通化を可能とした。その結果、開発コストの大幅な低減に成功しており、その分を前述したデザインなど、商品性の向上に振り向けている。ものづくりの原点にまで立ち戻って改革をめざした設計思想は、各方面に影響を与える可能性が大きい。

### 13G060604 ロケット

イプシロン 独立行政法人宇宙航空研究開発機構

<概要>高性能と低コストの両立をめざす新時代の固体燃料ロケット。1段目にH-IIAロケットの補助ブースタを活用、2・3段目は世界最高性能と謳われたM-Vロケットの上段を改良。日本が世界に誇る固体ロケット技術の集大成で、半世紀間に蓄積された知恵と技術の全てが込められている。革新技術と既存技術を組み合わせることで信頼性向上と性能向上を同時に実現。組み立てや点検などの運用が効率的なため、頻繁な打ち上げが可能となる。ロケットの打ち上げをもっと手軽なものとする。



<評価点>ひとを運ぶ乗り物ではない。観測衛星や機器を宇宙空間へ運ぶロケットである。日本には優れた固体燃料ロケット技術があるが、このイプシロン・ロケットの技術開発の目的は明快である。高性能、小型軽量コンパクト、低価格、組み立て、発射準備から解体のプロセスも徹底的に凝縮させることに徹した。ロケットの打上が特別な大仕事でなく「日常の出来事」のようにすることにあった。この観点は、インダストリアルデザインの目途と合致する。ロケット本体は極めてシンプルである。「宇宙への敷居を下げる」という姿勢は、外観意匠においてさらなる象徴性を必要とするだろう。グラフィックデザインの今後の可能性に期待したい。世界を市場に堂々と戦ってほしい。

### 13G070693 電波望遠鏡

アルマ望遠鏡モリタアレイ 自然科学研究機構国立天文台

<概要>日本を含む20の国と地域が共同で開発・運用する革新的な電波望遠鏡である。南米チリの標高5000m地帯に並ぶパラボラアンテナ66基の中で日本が開発したモリタアレイは、超高精度パラボラアンテナ16台、超伝導受信機と専用高速計算機からなり、史上最高画質の電波天体写真の撮影を可能にした。高地の砂漠という過酷な環境で100億光年もその彼方からやってくる微弱な電波を検出するため、高い天体追尾性能と鏡面精度を追求したアンテナ、極限まで高効率化した受信機、世界最高レベルの演算性能を持つ計算機を開発した。



<評価点>20の国と地域が共同で開発・運用する電波望遠鏡として、人類史上最高レベルの観測能力を可能にした。標高5000mという過酷な高地において、100億光年もその彼方からやってくる微弱な電波を検出するという課題に、天体追尾性を可能にする鏡面精度を持つアンテナ、高効率化された受信機、高い演算性能をもつ計算機を統合し、全ての開発において、厳しい精度を追求し実現させている。開発にあたっては、日本の研究者、メーカーらの技術の粋を結集し、日本らしい総合的なデザイン、精度の高いものづくりの力が、世界レベルによる人類の知の探求の営みに大きく貢献することを力強く示している。研究機器の開発、デザインという次元を超えて、地球と宇宙の関係を解き明かすことで「私たちはどこからきて、どこへいくのか」という人類の根源的な問いに挑戦する、人類の文化活動の歴史に刻まれるべき価値の高い開発プロジェクトと評価する。

### 13G110951 ジャンクション

#### 大橋ジャンクション 首都高速道路株式会社+東京都+目黒区

＜概要＞トンネルと高架を接続する高低差約70mの2回転ループ構造で、大気汚染や騒音、周辺環境への影響を低減するためループ部を覆う「覆蓋」を施しており、外観はローマのコロッセオを模した疑似窓やスリットを入れて圧迫感を軽減する工夫をしている。東京都施行の再開発事業との協働により2棟の再開発ビルや区画道路・広場、ジャンクション屋上の回遊式和風庭園が整備された。地下では中央環状品川線との接続工事が行われており、2本のシールドトンネルを地下で接続して一つの断面とし鋼製セグメントで一体化する世界初の工法が採用されている。



＜評価点＞地下から地上に向けて、困難と言われた東京の大動脈の分合流を山岳土木技術を駆使して実現すると共に、いきいきとした子供たちの居場所となるスペースが地域の足元にトータルデザインとして着地している。ローマのコロッセオと同スケールの構造体は、緊急時には避難スペースを、天空では気持ちのいい東京の新しい視点を生み出すことに成功、高さを変えるたび様々な機能と眺めが展開される新たな「東京のアーバンデザイン」といえよう。

### 13G121007 Google マップ

#### Google マップ グーグル株式会社

＜概要＞世界中の多くの国を網羅した豊富で正確な情報と、シンプルなUIを採用することで、店舗・場所の検索、車、公共交通機関、徒歩を統合した経路検索、目的地へのナビゲーションを行う総合モバイル地図アプリケーション。世界中どこでも利用できることを目標に設計されたUIは、店舗情報等をまとめた情報シートに電話番号、レビュー、ストリートビューや写真を一覧で表示し、ユーザーが行きたい場所を見つけ辿り着くまでの経路をサポート。世界40カ国以上29の言語に対応し、ユーザーの日々の活動を支えている。



＜評価点＞広く普及している地図アプリケーションであるが、ナビゲーションや検索のユーザーインターフェースが大幅に改善されるなど着実に進化している。携帯電話の画面という限られた領域を効果的に使うための工夫が成されており、地図と情報を同時にみる際などの利便性が向上している。国ごとの細かなカスタマイズがなされている。細部までよく吟味されユーザー視点に立った優れたインタラクションデザインである。

2013年度グッドデザイン大賞候補のビジュアルデータは、下記グッドデザイン賞PR事務局にお問い合わせください。

報道関係のお問い合わせ先

グッドデザイン賞PR事務局（共同PR株式会社内） 担当：渡辺、宇津木、横山

電話：03-3571-5238 FAX：03-3571-5380